

令和6年度 教科研修会 I 美術科 授業の様子

題 材 名	身近な「美」を表す		
授 業 学 級	1年A組 (40名)	授 業 者	常田 浩二
教 科 の 学 び	混色と重色による着彩、重色による色の3要素の変化		

【本時の様子】

生徒たちは、感じた身近な「美」を描き表すために、スケッチしたものの色合いを水彩絵の具でどのように着彩すればよいのかと考えました。

前回の混色による色合いで満足していた生徒がいた一方、もっと深みのある色の表し方ができないかという生徒の発言から、混色以外でどのように色を表せばよいのかという問いが生まれてきました。導入場面、教師の示範を見ながら、「混ぜる以外にも色を重ねてみたらどうか」、「色を重ねる順番や水の量も変えたら、違う色合いになってくるのではないか」という生徒たちの予想から、学習課題が据えられました。

本時は、演習として、様々な葉や木の色合いを表していきました。生徒は、画用紙の上で乾いた黄色に緑色を重ねたり、その逆を試したり、水の量を変えたりしながら重色で様々な色合いを表してしていました。終末、「重色を知り、色の順番や水分量で表し方が変わるところが混色と違った」や、「重色の方が鮮やかだと思った」という、混色と重色を比較しながら、重色の効果を実感する生徒たちの姿がありました。



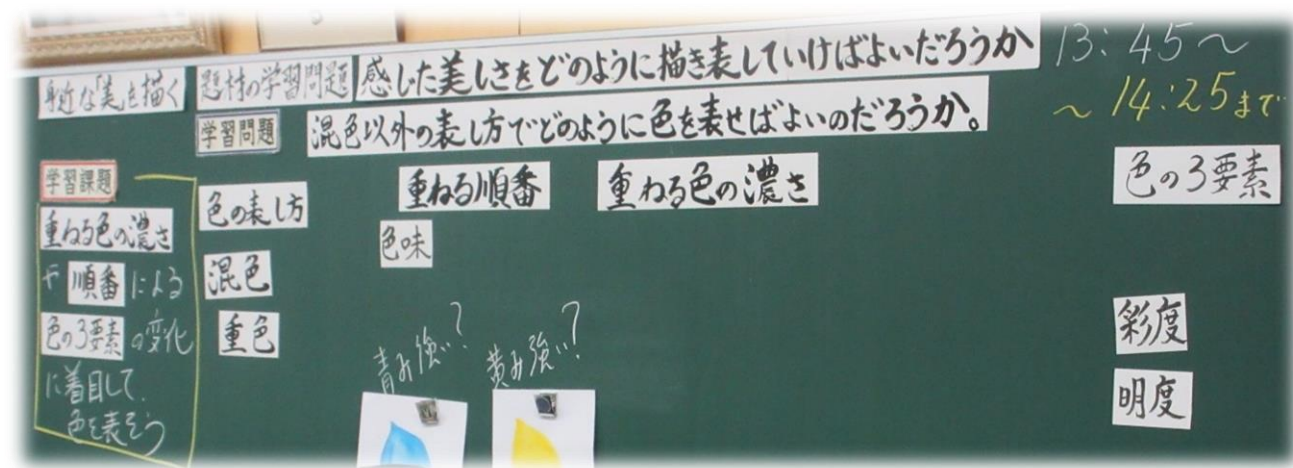
教師の示範を見ながら、
本時の見通しをもつ場面



重ねる順番や水の量を
変えて色を表す生徒の姿



友と対話ながら重色の
試行錯誤をしている場面



本時の板書